

## 磯城の道

古代、磯城と呼ばれる地域は、三輪山を中心にした奈良盆地の東南の地域を指し、現在の行政区画では天理市南部から桜井市東部にかけての地域と、磯城郡三町、すなわち川西、三宅、田原本町を合わせた所で、大和川、寺川、飛鳥川の流域にあたることです。

磯城は大和王権の発祥の地です。そして古代を通じて大和王権が本拠地とした所です。有名な埼玉の稲荷山古墳から出土したワカタケル大王の鉄剣には「獲加多支鹵大王寺在斯鬼宮時（ワカタケル大王、シキの宮に在る時）」と刻まれています。この鉄刀銘の「斯鬼（しき）宮」は、大王の宮のことではなく、「磯城」のことでしょう。当時、地方の豪族にとって、「シキ」という地名は大王の直轄地であり、沢山の人が集まるところであり、沢山のものが集まるところであり、文化の集まるところであり、生活の最も進んだところ、すなわち「都」として認識されていたのではないのでしょうか。もちろん都の中心は三輪山の麓で、そこは代々の大王の宮が営まれた所であり、大和川岸の市では歌垣が営まれ、様々な物が売り買いされた所だったのでしょ。そして大和川にはそれらの物を運ぶ舟が往来し、三宅ヶ原を始めとした周辺の肥沃な大地は、大王家の生産地があったところだったので。

遠い昔、明日香川と寺川に挟まれた丘の上には風が吹いていました。風の中に一人の少女が居ました。大王が少女に語り掛けました。

籠(こ)もよ み籠持ち ふくしもよ みぶくし持ち この岡に 菜摘ます子  
家告(の)らさね そらみつ 大和の国は おしなべて 我れこそ居れ  
しきなべて 我れこそ居れ 我れこそは 告らめ 家をも名をも

この歌は万葉集の最初の歌です。それは冊子の最初の頁の歌でもあるのです。

